

定年を迎える教授の

特別寄稿

退職によせて

昭和大学で学んだ血液内科



中牧 剛

医学部 内科学講座 血液内科学部門 (昭和大学病院)

2022年3月31日で昭和大学血液内科学部門教授を退任させていただきます。

定年退職に際して



中村 清吾

医学部 外科学講座 乳腺外科学部門 (昭和大学病院)

昭和大学に赴任したのが、2010年6月1日で、以来あつという間に、11年の月日が経ちました。その前、28年間は、聖路加国際病院に在籍していたので、臨床が中心の医師生活でしたが、学生教育と研究に興味を惹かれ、昭和大学に異動しました。

赴任前、年間100例前後の手術件数でしたが、現在、本院では500-600症例、他の附属病院の手術症例を集めると1,000件を超える乳がん手術をこなす我が国における一大拠点となりました。

2015年には、日本乳癌学会を主催し、翌2016年には、第2回アジア乳癌カンファレンス、さらに

造血研究(清水教授)は低酸素誘導因子(HIF)の作用点を、白血球の分化誘導療法研究(鶴岡教授)は癌の分子標的療法の重要性をそれぞれ予見しておられました。驚くばかりです。

2018年に増設され12床となった入院棟10階無菌室を舞台に、血液内科教室が造血幹細胞移植を中心

に数多くの臨床経験を重ね、成長できたことは私の5年の任期で残せた最大の財産と思えます。この間、難治性血液疾患の克服のために

関連診療科医(緩和医療、歯科など)、血液病理学医、臨床検査技師、看護師、理学

療法師、栄養士の専門的な役割のいずれもが欠かせないことを私自身学ばせていただきました。

定年退職に際して



桑迫 勇登

医学部 麻酔科学講座 (藤が丘病院)

1975年に昭和大学に入学、1981年に卒業し、大学院に進学とともに麻酔科学教室に入局しました。入局当時の主任教授は後に学長となられた細山田明義先生で、同郷(鹿児島出身)ということもあり大変可愛

がっていたいただきました。細山田先生が主任教授・学長を退かれても恩師と弟子の関係はふるさと会を通して密接であり、毎年数回は飲み会でご一緒しています。

本来私は消化器外科医を目指しており、麻酔科では2年ほど救急蘇生対応を学んだ後に転科する予定でしたが、いざ麻酔科に入局すると先輩方の勧めで学位取得のために麻酔科在籍が4年となり、さらに麻酔指導医

え前の病院で、初めて行ったときはまだ開院前で、私が只一人の研修医第一号でした。すべての科の先生方が私の指導をしてくださいました。旗の台に戻ってからは、3年間の留學もさせていただきました。

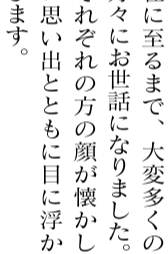
藤が丘病院へ勤務したのは1989年でした。寺田秀夫教授の下で臨床医として再出発することを許し頂きました。

実際の臨床については、森啓先生にご指導頂きました。多くの事務を、文字通り手取り足取りで、センスのない私を導いて下さいました。また、学問的には寺田秀夫先生に続いて小峰光博先生、新倉春男先生にご指導いただき大変感謝しております。

私は卒業とともに生化学教室の大学院に進みましたが、最初の2年間は豊洲病院で臨床研修をさせていだ

だきました。もちろん建て替

定年退職に際して



原田 浩史

医学部 内科学講座 血液内科学部門 (藤が丘病院)

8年が過ぎた頃になりました。8年が過ぎた頃になりました。8年が過ぎた頃になりました。8年が過ぎた頃になりました。

1、4、5号館前の石畳や噴水は学生時代とほぼ変わらなず、40数年前を思い出す風景です。古めかしい威厳のあつた病院正面玄関や旧手術室、医局は中央棟に変わりました。大学講義棟や石畳もいづれ取り壊され新しく建て替えられることでしょうか、私の脳裏には焼き付けておきたいと思

長い間お世話になりました。昭和大学が今後なお一層ご繁栄いたしますことを祈念いたします。

昭和大学と共に 甲状腺と共に 甲状腺と共に 甲状腺と共に

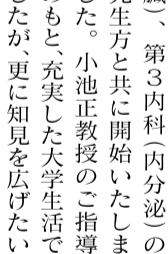
1978年4月に昭和大学医学部に入局し、1984年4月から石井淳一教授の外科に入局、3年目のころに、甲状腺疾患に対する外科手術、超音波に関する臨床研究を命じられ、甲状腺専門病院である「伊藤病院」への研修と超音波に関する臨床研究を当時の第2内科(肝臓)・第3内科(内分泌)の先生方と共に開始いたしました。小池正教授のご指導のもと、充実した大学生活でしたが、更に知見を広げたい希望が強く、1993年に昭和大学を離れ、J.R東京総合病院、USF Mt. Zion病院、伊藤病院へと異動を重ねました。多くの恩人となる先生から異なる考え方、新たな手技を学び、吸収することができました。2005年北部病院の新井一成教授に誘われ、12年ぶりに昭和大学に戻ることになりました。北部病院外科准教授を拝命し、甲状腺疾患の診断、治療、外科手術を白紙の状態から立ち上げることにになり、それから17年間は念願であった2019年には念願であった2019年には念願であった2019年には念願であった

この様な環境を作って頂いた昭和大学の皆様、関係各部署の皆様、そして医局員一同に心から感謝を申し上げます。今後は「甲状腺センター長」として、これまで以上に臨床、研究に専念し、更なる高みを目指して精進を続けたいと思っております。

福成 信博

医学部 一般外科学部門 消化器一般外科学部門 (横浜市北部病院 副院長)

昭和大学で過ごした47年



平井 康昭

富士吉田教育部

早いもので、この3月をもって定年を迎えることになりました。1975年、昭和大学に入学した時には人生の半分以上を昭和大学で過ごそうとは予想すらしませんでした。

私の研究生活の原点は、1年生で入局した薬用植物研究会にあります。夏合宿において、当時部長を務められていた庄司順三先生のお誘いで研究のお手伝いをするようになり、大学大学院修了後、庄司先生のもとで助手として働き始めましたが、当時は自宅より研究室で寝泊まりした日の方が多く、まるで大学に住んでいるようでした。

1991年にはカナダにあるブリティッシュコロンビア大学に留学させていた

専任超音波細胞検査士1名という甲状腺に特化した専門チームを診療科の枠を越えて構築することができました。手術件数も年間300件の第5位手術件数にまで到達しました。また、2018年には第51回日本甲状腺外科学会学術集会を主催する事ができました。

この様な環境を作って頂いた昭和大学の皆様、関係各部署の皆様、そして医局員一同に心から感謝を申し上げます。今後は「甲状腺センター長」として、これまで以上に臨床、研究に専念し、更なる高みを目指して精進を続けたいと思っております。

帰国後、富士吉田教育部を兼務し、1年生の指導担任を務めることになりました。最初は戸惑いもありましたが、学部を越えた学生の指導にやりがいを感じ、2013年に教育部に異動させていただきました。それ以来約9年、学内においては専門知識を活かしたサイエンス系選択科目を開講させていただきました。

学外においては地元の富士五湖薬剤師会に加えていただき、広報活動委員として公開講座や市政祭のイベントの企画・運営をしております。

私が昭和大学で楽しく過ごせたのは皆様のご支援、ご協力によるもので、心より感謝申し上げます。長い間本当にありがとうございました。